令和８年 10 月 28 日
保健医療介護部ワンヘルス総合推進課

各主体におけるワンヘルスの推進に関する取組について

１　世界における主な取組

（1）国連食糧農業機関(FAO)、国際獣疫事務局(WOAH)、世界保健機関(WHO)、国連環境計画(UNEP)の４者による「ワンヘルス共同行動計画」

2022年10月、FAO・WOAH・WHO・UNEPの４機関が、将来のパンデミックを防ぎ、ワンヘルス・アプローチを通じて持続可能な形で健康を促進するという国際的な要請に応えるため、2022年から2026年までのワンヘルス共同行動計画を策定。

複雑な健康リスクに対処できる強靭な保健システムの構築を目指す既存の取組をさらに発展させるため、４機関が連携してワンヘルスの実践を支援するための計画となっている。

2026年8月に2029年まで延長することが発表されている。

＜６つの優先行動分野＞

①ワンヘルス・アプローチによる保健システムの強化
②人獣共通感染症の流行やパンデミックによるリスクの軽減
③風土病、顧みられない熱帯病および媒介感染症の抑制と撲滅
④食品安全リスクの評価、管理およびコミュニケーションの強化
⑤静かなるパンデミックである薬剤耐性の抑制
⑥ワンヘルス政策および行動への環境の体系的な統合

（公社）日本 WHO 協会
（ワンヘルス共同行動計画）

（2）世界銀行による報告書「パンデミックを過去のものにする：新興感染症のリスクを軽減するためのワンヘルスへの投資」

ワンヘルス・アプローチへの投資が、国家経済や世界経済に与える影響を費用対効果の観点から分析。

2022年11月に発表された報告書は、パンデミック予防の利点を明らかにし、パンデミックを制御するための莫大な費用に比べれば、予防への比較的少額の投資は、計り知れないほどの利益をもたらすとしている。

＜費用対効果＞

・ワンヘルスに基づく「予防コスト」（世界銀行試算）：年間約103億～115億ドル
・パンデミックの「管理コスト」（G20試算）：年間約301億ドル
・パンデミックによる生産損失額（IMF資産）：13兆8,000億ドル（2024年まで）
・疾病の流行を予防するための対策は、最大86%の投資収益率が見込まれ、また、大きな副次的効果をもたらす。
例）森林伐採の抑制で、二酸化炭素排出量の削減から43億ドルの副次的効果が得られるとされている

世界銀行グループ_報告書

(3) ワンヘルス・サミット（フランス・リヨン）

2026年４月、フランスが議長国を務めるＧ７の認定イベントとして、ワンヘルス・サミットが開催され、世界各国の国家元首および政府首脳、国際機関や地域機関の長、国会議員、科学・学術分野の代表、民間部門、市民社会等が初めて一堂に会した。

本サミットでは、「ワンヘルス・アプローチこそが、事後対応に追われるのではなく、リスクを未然に防ぐための鍵である」という信念のもと、ワンヘルス・アプローチを国際的な行動および公共政策の戦略的枠組みとして推進するための決意が共有された。

また、参集した各界の代表者は、人間、動物、環境の健康のバランスを守りながら、私たちの健康に影響を及ぼし地球を損なっている主要な課題に対し、緊密に連携して取り組むことを誓約した。

２　国における主な取組

(1) 経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）（２０２３年、２０２６年）

骨太の方針に、ワンヘルス・アプローチの推進を明記

(2) 第２２１回国会における高市早苗内閣総理大臣施政方針演説（２０２６年2月２０日）

性差に由来した健康課題への対応を加速すべく、診療領域を横断した対応策の整理や診療拠点の整備を進め、特に女性の生涯にわたる健康支援を強化します。がん・難病のゲノム医療や「ワンヘルス」の取組も推進します。

(3) ワンヘルス関連の令和８年度予算

①ワンヘルス・アプローチに基づく人獣共通感染症対策の推進（厚生労働省）

26 百万円（前年度 26 百万円）

国において、野生動物の死亡数の変動の集計や動物の病原体検出情報を収集することで、動物由来感染症の発生状況把握、早期探知、情報解析を実施

②家畜衛生等総合対策等（農林水産省）

9,639 百万円（前年度 9,612 百万円）

ワンヘルス・アプローチに基づく人獣共通感染症対策の推進の観点も含め、家畜伝染病や病害虫の発生予防・まん延防止対策の取組を支援

(4) 厚生労働省がワンヘルス対策推進室を設置（２０２６年4月1日）

厚生労働省が、健康・生活衛生局 感染症対策部 感染症対策課内に、感染症対策におけるワンヘルス・アプローチを司ることを目的に、ワンヘルス対策推進室を設置。

３　国内大学における主な取組

（1）北海道大学

〇One Healthリサーチセンター

感染症学、環境科学・保全医学、汎動物学、ヒトと動物の絆・動物福祉学を教育研究の4つの柱に据え、多角的な教育研究活動及び人材育成に取り組むとともに、“One Health for One Future”のスローガンの基、「ヒトと動物の健康及び環境の健全性」を維持し、「ヒトと動物のウェルビーイング」を追求するため、国内外の関係機関と連携した教育研究およびアウトリーチ活動を通じて社会に貢献することを目指している。

（2）東京大学

〇ワンヘルス・ワンワールド連携研究機構

ヒトと動物の健康とそれらを取り巻く地球環境を一つの学問領域として統括的に科学する学術研究拠点を形成し、関連情報の集約や発信、国内外で活躍する人材育成を通して、今後直面するかもしれない様々なリスクを予見・対応し、関連学術分野を総合的・協調的に発展させることを目指している。

（3）山口大学

〇One Welfare国際研究センター

従来の「ワンヘルス」の概念を発展させ、人と動物の健康に加え「生活の質や福祉（ウェルビーイング）」を一体的に捉える「ワンウェルフェア」の概念を取り入れ、新たな手法・視点による異分野融合研究を推進する拠点を整備し、人と動物がよりよく共生できる社会の実現に貢献することを目指している。

（4）九州大学

〇アジア・オセアニア研究教育機構

「アジア・オセアニアの課題解決は世界中の課題解決に繋がる」と考え、アジア・オセアニア地域で今日生じている社会的課題の解決、将来生起することが予想される社会問題の発生抑制に貢献することを通じて、未来を拓く新たな学問領域の構築を目指している。

多面的なアプローチが必要な社会課題に立ち向かうため、分野の垣根を越えて、複数のモジュールを有するクラスター単位で活動を行い、健康クラスターにワンヘルス・モジュールを設置している。

４　福岡県における主な取組

人獣共通感染症対策や薬剤耐性対策など「人の命と健康を守る」取組をはじめとして、ワンヘルスの推進に向けて、施策を展開(詳細は「福岡県のワンヘルスの取組」を参照)

福岡県のワンヘルスの取組

令和８年１０月

ワンヘルス総合推進課

福岡宣言（2016年）

“One Health”の概念を検証し認識する段階から
“One Health”の実践に向け、医師と獣医師が協力して取り組む旨の４項目を宣言





第2回 世界獣医師会-世界医師会 “OneHealth” に関する国際会議

福岡宣言

人類は、地球上の全ての生命に配慮し、地球環境を健全に維持する責任を負っている。医師と獣医師は、科学的知識を持ち、専門的訓練を受け、法に定められた義務を遂行するとともに、人と動物の健康と環境の維持に係る幅広い活動分野において業務に携わる機会と責任を有している。

2012年10月、世界獣医師会と世界医師会は、“Global Health” の向上のため、また、人と動物の共通感染症への対応、責任ある抗菌剤の使用、教育、臨床及び公衆衛生に係る協力体制を強化するため、両者が連携し、一体となって取り組むことを合意し、覚書を取り交わした。

2013年11月、日本医師会と日本獣医師会は、健康で安全な社会を構築するため、医療及び獣医療の発展に関する学術情報を共有し、連携・共同することを同意し、協定書を取り交わした。更に、日本医師会と日本獣医師会は、2011年3月に発生した東日本大震災における教訓を踏まえ、感染症、自然災害などの危機に対し、備えることは勿論、医師と獣医師との連携の強化が、小に大切であるかという点についても意見の一致を見た。この協定書締結は、日本全国の地域医師会と地方獣医師会においても達成された。

2016年11月、世界獣医師会、世界医師会、日本医師会、日本獣医師会の４者は、2015年、スペインのマドリードで開催された第1回“One Health” に関する国際会議に続いて、第2回目の国際会議を日本で開催した。

医師と獣医師は、世界各地からこの福岡の地に集い、人と動物の共通感染症、薬剤耐性対策等を含む“One Health” に関する重要な課題について情報交換と有効な対策の検討を行い、評価すべき成果を収めた。

我々は本会議の成果を踏まえ、“One Health” の概念を検証し、認識する段階から、“One Health” の概念に基づき行動し、実践する段階に進むことを決意し、以下のとおり宣言する。

1. 医師と獣医師は、人と動物の共通感染症予防のための情報交換を促進し、協力関係を強化すると共に、その研究体制の整備に向け、一層の連携・協力を図る。
2. 医師と獣医師は、人と動物の医療において重要な抗菌剤の責任ある使用のため、協力関係を強化する。
3. 医師と獣医師は、”One Health” の概念の理解と実践を含む医学教育および獣医学教育の改善・整備を図る活動を支援する。
4. 医師と獣医師は、健康で安全な社会の構築に係る全ての課題解決のために両者の交流を促進し、協力関係を強化する。

World Veterinary Association Representative
Johannes Charles Hendrikus Cuijpers

World Medical Association Representative
Xavier Deau, Guillaume Pare Président

Japan Medical Association Representative
Yoshitaka Yokokura, President

Japan Veterinary Medical Association Representative
Inao Kamachi, President

平成28年11月11日福岡県北九州市において調印。
写真左から、鍋内秀夫 日本獣医師会会長、ジョリソン・チャン 世界獣医師会元副会長、ザビエル・デュー 世界医師会元会長、横倉義武 日本医師会会長。

＜福岡県がワンヘルスに取り組み始めた経緯＞

○平成２８年１１月に「第２回世界獣医師会－世界医師会“One Health”に関する国際会議」が福岡県北九州市で開催された。
この会議において、「ワンヘルス」の理念を認識する段階から実践する段階に進むことが決議された「福岡宣言」がまとめられ、ワンヘルスに対する認識を新たにした。

○その後発生した新型コロナウイルス感染症のような新興感染症の６割は動物に由来するものと言われており、これらのリスクに対応するため、福岡県では、ワンヘルスの推進を重要な政策として掲げ、ワンヘルスの理解の促進と、実践の推進、この２つを軸に施策を展開している。

福岡県のワンヘルスの取組①

ワンヘルスセンター（仮称）





保健環境研究所



動物保健衛生所

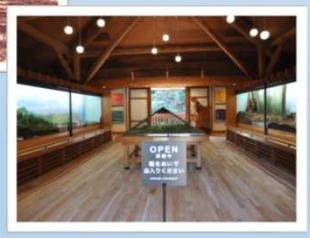


体験学習ゾーン

2027年度中の供用開始を目指して整備中

ワンヘルスの森





ワンヘルスに対する理解の促進と心身の健康づくりを進めるため、「ワンヘルスの森」を整備

3

＜ワンヘルスセンター（仮称）＞

○福岡県では、人間の保健衛生と環境保全に関する機能を持つ保健環境研究所と、動物保健衛生所で構成するワンヘルスセンター（仮称）を、２０２７年度中の供用開始を目指して整備を進めている。
国内外の研究者と連携して、ワンヘルスの先進的な研究を行う施設となる。

○そのほかセンターには、屋内外の体験学習ゾーンを整備し、屋外には、生物多様性の豊かな１９６０年代の地元の里地里山及び田園、掘割の景観と生態系を再現こととしている。

＜ワンヘルスの森＞

○県民の皆様が五感で自然を楽しみながら、健康づくりや生物多様性の学習などワンヘルスを実践できる森林公園として整備している。

○園内には、「ワンヘルスの森ミュージアム」を中心に、様々な動植物の生態や地域の歴史を学ぶことができる。

○訪れた人々が、自然と触れ合うリアルな体験を通じて、生物多様性の観点からワンヘルスについて自ら考えるきっかけを創出している。

福岡県のワンヘルスの取組②

ワンヘルス宣言事業者登録制度



約12,000団体
が登録

ワンヘルスの取組を行うことを宣言した
福岡県内の事業者を県が登録する制度

ワンヘルス認証制度



ワンヘルスの理念に沿って生産・販売された農林水産物や加工品を認証する「福岡県ワンヘルス認証制度」を全国で初めて創設

4

＜ワンヘルス宣言事業者登録制度＞

○事業者におけるワンヘルスの取組を広げることを目的として、福岡県内の事業者が、その事業活動の中でワンヘルスに関する取組を行うことを宣言し、それを県が登録する制度である。
令和８年３月末までに、約１２，０００団体を登録している。

＜ワンヘルス認証制度＞

○ワンヘルス認証制度は、「次世代につなぐ食と農」を実現することを目的とした全国初の新しい認証制度である。

○生態系の保全や安全・安心な食の提供などワンヘルスの理念に沿って生産される農林水産物等を県が認証しており、令和８年３月末までに、約１１，５００経営体、約５５０品目を認証している。

福岡県のワンヘルスの取組③

市町村との連携（ワンヘルス啓発施設）

市町村のワンヘルス宣言

県内６０市町村すべてがワンヘルスに取り組む宣言を行うなど、市町村と連携してワンヘルスを推進

ワンヘルス啓発施設

大牟田市動物園







フォレストアドベンチャー・添田





ワンヘルスについて学び、体験するなど、
ワンヘルスの理解を深める取組を行う市町村の施設を県が認定

＜市町村との連携＞

○福岡県内の６０市町村すべてがワンヘルスに取り組むという宣言をするなど、ワンヘルスの取組は広がりを見せている。
福岡県はこれらの市町村と連携してワンヘルスを推進している。

○ワンヘルスについて学び、体験するなど、ワンヘルスの理解を深める取組を行っている市町村の施設を「ワンヘルス啓発施設」として認定している。
動物福祉を伝える「大牟田市動物園」や、自然を活かしたアウトドアパーク「フォレストアドベンチャー・添田」などの施設をワンヘルス啓発施設として認定している。

福岡県のワンヘルスの取組④

ワンヘルス絵本

幼児期向け



ワンヘルスリーフレット

小中高校生向け



ワンヘルス教育プログラム

大学生向け

ワンヘルスの概念や歴史、人獣共通感染症、薬剤耐性菌など30テーマの授業用動画で構成





6

＜ワンヘルス教育＞

○ワンヘルスの理念を基に、子どもたちが生涯にわたって自らの健康や環境を適切に管理・改善していくために必要な能力を身につけるためのワンヘルス教育を令和３年度から開始している。

○幼児向けには、自然への愛情、動植物を大切にする気持ちを育てるため、ワンヘルスの絵本を作成し、県内のすべての幼稚園・保育所に配布している。

○小・中・高校生向けには、発達段階に応じて、ワンヘルスを理解できるよう、ワンヘルスを分かりやすく解説した４種類のリーフレットを年代別に作成、配布し、これまで小学校・中学校の７割以上がこれを活用して、各教科の内容にワンヘルスの視点を関連させた授業を行っている。

○ワンヘルス・アプローチを身につけた人材は、複雑で困難な社会課題の解決や新たな価値を創造する可能性も秘めている人材であると考えている。このことから、大学生に対しては、「ワンヘルス教育プログラム」を作成した。
このプログラムは、ワンヘルスに関する協定を締結している国立大学や福岡県獣医師会などの協力により作成した授業用の動画を活用するものであり、ワンヘルスの概念や歴史、人獣共通感染症、薬剤耐性菌、大気や水などの環境、畜産、昆虫、食品など、３０にわたるテーマの動画を専用サイトに掲載し、導入いただく大学に提供している。令和８年３月末までに、４つの大学に導入いただき、一般教養科目の単位として採用いただいている。

○幼児期からの教育を通じ、大人になっても生きとし生けるものの命を、私たちが住むこの地球を大切にするような人を育てていきたい。

福岡県のワンヘルスの取組⑤

ワンヘルス未来会議

県民一人ひとりが「自分ごと」としてワンヘルスに取り組んでいただくようになるための身近な取組や、その伝え方などを話し合い、県に提案いただく会議。
令和８年５月、県民に取り組んでいただきたい、身近なワンヘルスの取組について、未来会議の委員が知事に直接提案。







提案内容

【第1グループ提案】動物に触れる前と後は手を洗おう！
動物との触れ合いにおける「手洗い」を啓発し、人獣共通感染症への意識を高める
【第2グループ提案】「ワンヘルヒン」（ワンヘルス認証商品）を食べよう
ワンヘルス認証商品の消費を推奨し、持続可能な食生活を推進
【第3グループ提案】「てまえどり」を実践しよう！
「てまえどり」の実践を推奨し、食品ロス削減を通じてワンヘルスを推進
【第4グループ提案】地元の食材を食べよう！
地産地消を推進し、地元の食材を積極的に摂取
【第5グループ提案】ペットボトルキャップを回収する
キャップの回収を推奨し、リサイクルを通じたワンヘルスへの貢献を促す
【オブザーバー提案】ゴミの分別を徹底しよう
日常的なゴミの分別をワンヘルス活動と結びつけ、その徹底を促す

7

＜ワンヘルス未来会議＞

○ワンヘルス未来会議は、「ワンヘルスとは何かよくわからない」、「具体的に何をしてよいのかわからない」といった県民の皆さんからの声があることから、県民の皆さんが日常生活の中で取り組める身近なワンヘルスの活動について話し合い、県に提案いただくことを目的に、令和７年度に設置した。

○高校生や大学生、県内で活動する団体や市町村の職員から、公募によって選ばれた２０名の委員で構成され、さらにそこにオブザーバーとして県内４市町村からも参加いただき、県民一人ひとりが「自分ごと」としてワンヘルスに取り組んでいただくようになるための身近な取組について、全５回の会議を通じて話し合いを行っていただいた。

○令和８年５月、県民に取り組んでいただきたい身近なワンヘルスの取組について、委員から知事に提案した。

○未来会議から提案を受けた取組を県内全域に展開していくため、市町村や事業者の取組に対し経費の支援を行っている。

福岡県のワンヘルスの取組⑥

ワンヘルス国際フォーラム

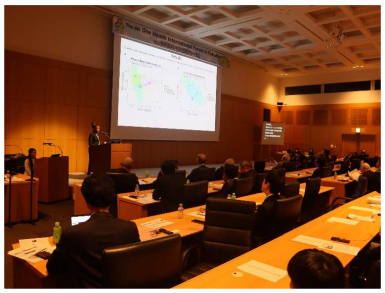
高校生

大学生









ワンヘルスの視点を通して、「気付き」「調べて」「話し合い」「行動する」

社会で自分らしく生きていく力を育む

8

＜ワンヘルス国際フォーラム＞

○福岡県は、世界の研究者や専門家の皆様がワンヘルス・アプローチによる研究成果などを世界に向けて発信することを目的として、ワンヘルス国際フォーラムを令和２年度から毎年開催している。

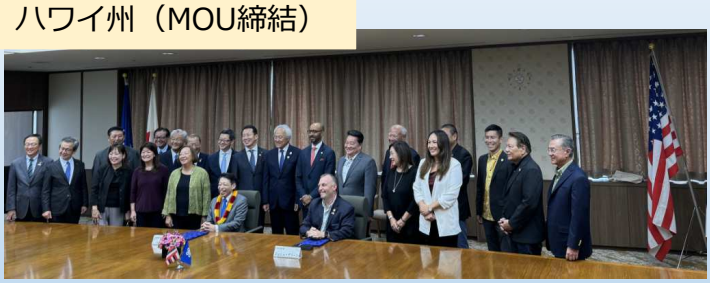
○高校生や大学生には、このフォーラムの場を活用して、活動や研究成果を発表いただいている。

福岡県のワンヘルスの取組⑦

海外の姉妹都市との連携

ハワイ州とMOUを締結するなど、海外の姉妹都市と連携してワンヘルスを推進

ハワイ州（MOU締結）



県内高校生のハワイ訪問



バンコク都（基本合意書締結）



ハノイ市（共同宣言）



9

＜海外の姉妹都市との連携＞

〇ワンヘルスの推進に関して、海外の姉妹都市との連携も進めている。

〇令和６年９月、ワンヘルスの推進に関する覚書をハワイ州と初めて締結し、その後、他都市との連携につなげることができた。

〇ハワイ州との覚書に基づく取組として、県内の高校生がハワイを訪れ、地元の高校生に対してワンヘルスに関するプレゼンテーションを行い、ワンヘルスの活動について意見交換するなど、ハワイ州と協力してワンヘルスの推進に取り組んでいる。

FUKUOKA
ONE HEALTH

本県のワンヘルスに関する取組の
国際獣疫事務局（WOAH）ホームページへの掲載について

1　経緯

国際獣疫事務局（WOAH）、世界保健機関（WHO）、国連食糧農業機関（FAO）及び国連環境計画（UNEP）の4つの国際機関は、複雑で多面的な健康リスクへの対応能力を強化することを目指し、共同で「ワンヘルス共同行動計画（One Health Joint Plan of Action）」を策定しています。

昨年、国際獣疫事務局（WOAH）から「WOAH が作成するワンヘルスの取組に関する事例集の1つとして、福岡県の取組を掲載したい」と FAVA ワンヘルス福岡オフィスを通じて依頼があったことを受け、本県から資料を提供し、本年6月に WOAH のホームページに公開されました。

2　題名

ワンヘルスの実践：福岡県 － 日本の地方レベルにおけるワンヘルスの推進

（One Health in Action: Fukuoka Prefecture - Advancing One Health at the sub-national level in Japan）

執筆者：WOAH アジア太平洋地域代表事務所

代表代理　Lesa（リサ） Thompson（トンプソン）



3　主な内容

本県がワンヘルスに取り組むに至った背景及び条例による位置付け、ワンヘルス国際フォーラムやワンヘルス認証制度、ワンヘルス教育といった具体的な本県の取組を紹介するとともに、本県の取組が、「ワンヘルス共同行動計画」の具体的な実証モデルとして他の地域においても展開可能な仕組みであると評価しています。

4　掲載先

WOAH ホームページ

https://www.woah.org/en/document/one-health-in-action-fukuoka-prefecture-advancing-one-health-at-the-sub-national-level-in-japan/